

Peace Candle 2016

特定非営利活動法人 ひろしま点灯虫の会
733-0815 広島市西区己斐上 5-31-15
082-578-2324
www.peacecandle.or.jp



目 次

- 1、ごあいさつ
- 2、当日の様子
 - 2-1 キャンドルが灯るまで
 - 2-2 点灯
 - 2-3 参加者の声
- 3、修学旅行生のキャンドル制作
- 4、キャンドルのリサイクル
- 5、2017年のピースキャンドルのご案内
- 6、協賛企業様のご紹介



ごあいさつ

今年で20年目になるピースキャンドルは、多くの皆様のご参加をいただき、約5500個のキャンドルを点灯することができました。オバマ大統領の来広もあった2016年は、よりたくさんの方にピースキャンドルのメッセージを届けることが出来たと思います。年を重ねるごとに、キャンドルと共に本当にたくさんの方々にご参加いただくようになりました。来年、21年目のピースキャンドルの灯る8月6日は日曜日です。来年も「平和の祈り」「夢」「希望」の灯りを、皆様と灯してまいりたいと思います。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

理事長・事務局長 鈴木 俊哉

8.6 キャンドルが灯るまで

総勢 250 人のボランティアにご協力頂きました。

16:00

メンバーの知人・友人や県内外の大学生にも協力いただき、250人のボランティアスタッフが今年も参加してくださいました。大学生のなかにはテストが終わり次第駆けつけてくれる方も。

スタッフは、赤いTシャツを着用。昨年は紫を選びサンフレッチェが優勝したことにあやかり、赤にはカープ優勝への思いもひそかに込められているとか。



デザインは mamama さん。



様々な視点で。

昨年の9月から今年の7月までに作成されたキャンドルをひとつひとつ、ボランティアの手により原爆ドームの周りに並べられていきます。似ているようでも同じものではなく、それぞれ書き手の個性が感じら

れます。なかには汗を拭いながら、じっくり眺める場面も。キャンドルをつくる人だけでなく、見る人にとっても平和学習になっていきます。



じぶんで作ったキャンドルを並べに。

18:15

今年も多くの学校のPTCでキャンドル制作を行いました。17時を過ぎる頃には、参加保護者の方や先生の姿も見えはじめ、自分で制作したキャンドルや友人たちのキャンドルを並べていきます。参加は有志だそうで、友だちと保護者さんと参加していた小学生は賑やかなまわりの様子と友人との課外活動にとっても嬉しそうな表情を浮かべていました。



たくさんのキャンドルが飛び入り参加



毎年、キャンドルの絵付けブースを設けています。旅行客を中心に今年も多くの人に絵付けに参加していただき、用意した150個のキャンドルが新たに原爆ドームの周りに灯されました。

学校の授業、ボランティア、修学旅行のプログラム、当日の制作など、ピースキャンドルには多種多様な参加の仕方があります。今年も多くの人の手によりピースキャンドルの風景が作られました。



点灯式

18:45

ほぼ全てのキャンドルが原爆ドームの周りに並べられたころ、原爆ドームの北側で、緑井小学校、大塚小学校の児童と共に点灯式がはじまりました。平和の歌を、参加者の方々と一緒に歌声を響かせました。



19:00 点灯

点灯式後、ボランティアスタッフがキャンドルにひとつひとつ点火していきました。夕暮れ時の原爆ドームがキャンドルから漏れるあたたかな灯で照らされ、あちこちで写真を撮る姿や、ゆっくりとした足取りでキャンドルを見つめる姿が見られました。

この日に合わせて、広島では原水爆実験を禁止するデモが行われていました。キャンドルを見つめる方に、声をかけると、秋田からデモに参加し、その帰りに立ち寄ったのだそう。

お連れの方と柔らかな笑顔で、時折感想を言い合いながらじっくりキャンドルを見ていらっしゃいました。

また、外国から旅行で来た方も多く見られました。英語だけでなく、フランス語、スペイン語、韓国語、中国語、ポルトガル語などさまざまな言語が聞こえてきました。

キャンドルをひとつひとつじっくりと真剣に見つめながら、なかには気に入ったキャンドルを写真に収めたり、キャンドルの絵付けを行ったり、当会がこの日限定で販売しているTシャツを購入される方もいらっしゃいました。当会がこの日に用意したボランティアTシャツは、ご寄付を頂いた方にもお礼としてお渡しいたしました。





参加者のみなさまにお話を聞きました。

ピースキャンドルは、上の兄弟が小学生だった数年前から知っていました。点灯で歓声が上がるとき、すごく楽しそうな様子が印象的です。今まで何度かピースキャンドルに参加してきましたが、当日にキャンドルを並べに原爆ドームに足を運んだのは初めてです。

平和学習ではよく折り鶴を作ったりすることがありますが、ピースキャンドルは自分で自由に作ることができるのも良いところだと思います。

(八幡小学校の保護者様)

今日は、友だちを誘って夏休み前の授業で自分が作ったキャンドルを並べにきました。

学校で、ピースキャンドルを作るのはすこし難しく感じました。でも、成功してよかったです。(友人と保護者の方と一緒に参加されていました。友人との課外活動にとっても楽しそうでした。)

(学校の授業でピースキャンドルの作成をした小学生の女の子)

授業で3～4年ほど前から、平和について考える時間にピースキャンドルを取り入れています。

広島で生まれ育った児童だけでなく、なかには県外からの転校生もいるのですが、転校生にとってはインパクトが強いようです。歴史から学ぶことに加えて、能動的に取り組んでいくことは大切だと思います。また、学校での授業だけでなく、こうやって夏休み中の8・6に足を運ぶ機会ができるのはいいことだと思いますね。

(中山小学校の先生)



カメラマン
堂畝 紘子さん

今回、カメラ班として参加して頂いた堂畝紘子さんは、普段はプロのカメラマンとして活動されています。また、被爆三世の家族写真を撮る「被爆三世 これからの私たちは project」という活動もされています。

若い人の参加が多いことや、点灯後にボランティアの方や一般の方々が笑顔でキャンドルに集まっていらっしゃった様子が印象的です。灯されたキャンドルを見て自分も参加しようとして向かわれる方、文字や絵をひとつひとつ追っている海外の方々の姿も心に残っていて、これらひとつひとつが誰かの平和を考えるきっかけとなる灯なのだなあと感じました。

私の活動は、主に広島・長崎市民(特に同世代以下)に向けてのきっかけ作りが目的ですが、ピースキャンドルは視覚的にも美しく、世代や人種をこえて幅広く伝えられる素敵なツールだと感じています。

交通事故や労働災害の予防を目的としたコンサルティング会社を営んでいる津森さんは、広島市が行う「ひろ記者」としても活動されています。今回はひろ記者としてピースキャンドルに参加してくださいました。

強く感じたのは、「平和」を維持するためには市民・団体がそれぞれの立場で行動する必要があるということです。戦争の反対語は平和ではなく、無関心だと考えています。少なくとも8月6日に平和公園にいる皆さんは何かの関心をお持ちの方々。どんな活動でもよいので、8・6に参加される市民が増えることが望まれます。

私は普段幅広い「安全」に関係する業務を担っていますが、同じ内容を発信するにしても、「ヒロシマ」からの情報は発信力が桁違いに大きいと感じます。ピースキャンドルの活動は歴史もあり、活動の幅も広がっていることが分かり、改めて素晴らしいものだと再認識しました。

アイセックという学生団体で活動をしており、数年前からピースキャンドルへのボランティア参加に加え、ワークショップ、パネルディスカッションや観光を組み合わせイベントを開催しています。

ピースキャンドルに参加することは、僕達にとっても平和について考える機会にもなります。また、8月6日に世界中から来る人たちとの交流は価値のあるものだと思います。

私は島根県出身で、今年から進学で広島に住み始めました。このように大規模なイベントでさまざまな人と関わるのは初めてですが、参加できてとてもよかったです。8月6日だけではなく小学校のピースキャンドル作成のボランティアとしても参加しました。作成したキャンドルを体育館で点灯した時の子どもたちの歓声やその時の表情にとっても感動しました。

(広島修道大学 柳光 沙和子さん)

修学旅行で広島に来たことがあり、資料館や原爆ドームなど一通り見学をしていましたが、知識が増え、視点が変わると、同じ景色でも学ぶことや目に留まるものが違います。広島には、惨状を伝える碑や平和を訴えるオブジェ、被爆した建造物が残されており、広島の人たちは普段から平和を考える機会に恵まれています。僕達は普段はそのような機会はありません。だからこそ、8月6日に原爆ドームでこのような活動に参加することに価値を感じます。ピースキャンドルの風景を見て、おぼろげながら持っていた暗い印象が払拭されました。

(東京から参加した大学生)



ひろ記者
津森 正裕さん



広島修道大学
谷崎 翼さん

修学旅行生のキャンドル制作

修学旅行のプログラムとして、ピースキャンドルをご利用いただき、ピースキャンドルを作成したり、作成したキャンドルを使用したセレモニーを開催されています。原爆ドームに灯るキャンドルのうち約2割は修学旅行生によるものです。今年の9月までに行われた修学旅行のピースキャンドルの様子を紹介します。

オーストラリアから修学旅行で来広した高校生のみなさんは、すぐにどんどんクレヨンで絵を描いていられました。完成後は原爆ドーム前に移動して黙祷。

「資料館の見学もいいけれど、このようなアクティビティはまた違った良さがあります。生徒たちの創造性に働きかけるすてきな機会ですね。」と引率の先生はおっしゃっていました。



佐賀県の白石町立有明中学校の修学旅行でのピースキャンドルの様子です。友だちとお話をしながら、和やかに、真っ白なキャンドルに絵付けをしています。絵付け終了後は、歩いて原爆ドームまで移動し、生徒さん達が考えてき



た平和のセレモニーを行いました。

絵付けの様子とは打って変わって、真剣な表情でセレモニーに臨まれていました。



キャンドルのリサイクル

よりたくさんのキャンドルが
リサイクルできるようになりました。

これまで、点灯後のキャンドルは手作業によりクレヨン等の塗料を落とし、一部をリサイクルしていましたが、量や人手に限界がありました。

この度、ハンドメイドキャンドルショップを運営され、キャンドルのリサイクルループを構築を目指されている藤代裕子さん（Tieh）にお声掛けを頂き、より多くのキャンドルをリサイクルできることとなりました。

リサイクルされたキャンドルは、カラフルなアロマキャンドルなどに生まれ変わるそうです。



左：使用済みキャンドル（カラー）を新しい白色キャンドルに混ぜたもの。
右：より多くの使用済みキャンドルを使用。



キャンドルループ

灯し終えたキャンドルを回収し、リサイクルキャンドルとして商品化を行い、売上金の一部を森林保全活動を行われている「more trees」様への募金へと繋ぐリサイクル計画。

企業や団体、消費者と三位一体となり、キャンドルの「リサイクルループ＝「キャンドルループ」

」を循環させることで、継続的に天然資源であるワックス（ロウ）を自然へと還元する活動だそうです。



リサイクルループ実現に必要な費用を READY FOR? で資金調達に成功されました。



色ごとに分別し、溶かし直したリサイクルワックスのストック

2017年ピースキャンドルのご案内

2017年8月6日（日曜日）に21年目のピースキャンドルを皆さんと灯したいと思います。正式には来年の2月に広島市に後援の申請を行いた後、皆様にご案内を行いますが、その前に少し予定をご紹介します。

ピースキャンドルは、各学校や公民館、団体。また修学旅行で来広される学校が中心となり、作成をされます。各学校等で作成する場合は、事前の「ピースキャンドル指導者講習会」にご参加を頂き、その上で各学校等での作成することとなります。

講習会は5月から7月までの土日を中心として、袋町小学校の家庭科室で行っておりますが、袋町小学校の特別教室開放事業の中で行いますので、前月まで日程が確定致しません。その為、4月頃に各団体様にお送りする「ピースキャンドルのご案内」へのお申し込みを頂いた団体様だけに、講習会以降のご案内をお送りしております。2017年も同様の段取りで考えております。

ただしご注意いただきたいのは、2017年より原則として各学校・

参加の流れ

①ピースキャンドル指導者講習会に参加

日時：5月～7月の土日（1ヶ月前に詳細日決定）

場所：袋町小学校家庭科室

備考：4月にお送りするピースキャンドルのご案内へお申込み頂いた団体様へ講習会以降のご案内をお送りしています。

②材料・機材を事務局まで引き取り

必要な団体様には、材料・一部機材を貸与を行っております。一週間前までに事務局（西区）まで引き取りにいらしてください。

機材は **150個作成用の機材を2セット**までご用意。

当会での搬入は行っておりません。

③各学校で作成

講師派遣を行わない代わりに、下記の3点のツールをご用意いたします。参考にして頂ければ幸いです。

- ・動画
- ・作成シナリオ
- ・標準タイムテーブル

※初めて行う団体様には講師派遣を検討します。

団体様に講師は派遣を行わないということです。（例外として初めてピースキャンドルに取り組む団体様のみ、ご相談の上派遣することも検討いたします。）

「指導者講習会だけでは不安」という方のために、当会からは従来の資料に加えて「作成のシナリオ」「詳細の標準タイムテーブル」「作成動画」を準備し、提供する予定にしています。いずれも参加申し込みを頂いた団体様に、後日ダウンロード頂けるようにいたします。

また、従来講師以外に「材料」「一部機材の貸与」も致しておりましたが、原則的に「材料」はそれぞれの学校様・団体様が実施をされる1週間前までに当会の事務局（広島市西区己斐上）にて準備しておりますので、それぞれの団体様が引き取りにお越しいただきます。

機材の貸与は、150個作成用の機材セットを2セット準備したいと思いますが、それぞれ当会が搬入することはできませんので、ご参加頂いている団体様で引き継いで頂きます。

引き継ぎは、前の学校・団体様が終了後、次の団体様の方まで搬入を頂くというルールになります。A学校が終了したら、A学校の方がB学校まで搬入。B学校が終了したら、B学校の方がC学校に搬入いただきます。遠方の学校様の引継の場合は、別途打ち合わせをさせて頂きます。臨時休校等の場合も前後で責任を持って引き渡しをお願い致します。

以上の様な変更点を考えておりますので、ピースキャンドル作成の主体となるPTA様等では、その点を十分ご理解いただき、参加のご検討を頂きたいと思っております。

貸与機材の引き取り・引き継ぎ方法

機材の貸与をご希望の団体様は、下記の手順に沿って引き取りと次の団体様への引き継ぎをお願いいたします。

A 学校

- ・1週間前までに、A学校の担当者が事務局まで引き取り。
- ・作成
- ・B学校まで機材を搬入。

B 学校

- ・A学校から機材を受け取る。
- ・作成
- ・C学校まで機材を搬入。

C 学校

- ・B学校から機材を受け取る。
- ・作成
- ・事務局まで機材を返却。

遠方の学校様の引継の場合は、別途打ち合わせをさせて頂きます。臨時休校等の場合も前後で責任を持って引き渡しをお願い致します。

協賛・協力企業の皆様

- ・ チチヤス株式会社
- ・ フマキラー株式会社
- ・ 株式会社 大進
- ・ 有限会社 イーティークラフト
- ・ 松井紀子写真教室
- ・ こはる写真館（堂畝紘子）
- ・ 株式会社 重富酒店
- ・ 株式会社 藤田孔版
- ・ 株式会社 デイ・リンク
- ・ 木松旅館

- ・ 松川建設 株式会社
- ・ FC デザイン 株式会社
- ・ NPO 法人 音楽は平和を運ぶ
- ・ 株式会社 プレセゾン

(敬称略)

編集後記

この度は、報告書の作成という形でピースキャンドルに関わることができて、本当によかったです。お声掛けいただき、ありがとうございました。

大学生の時、初めてとある小学校の PTC に参加しました。

牛乳パックに注がれるロウの温かみや重さ、慎重に作業しなければ！という真剣な表情、友だちと集まってなんだか楽しいという浮足立つ気持ち、また保護者の方の我が子の成長に思いを馳せるように目を細める表情、いろいろなものの発するエネルギーが体育館に充満していて、胸がいっぱいになりました。

涙がこぼれてしまいそうなのを、我慢するのが大変でした。

そしてこれが感動という感覚なのだということに気付き、こんな素敵な体験ができるなんて、広島に引っ越してきて本当によかったと、蒸し暑い7月の体育館で感じました。今でもその情景が思い浮かびます。

今年は、参加者の方にインタビューをさせていただきながら参加しました。人それぞれの感じ方に触れ、今年のピースキャンドルはまた違った風景になりました。

これからも誰かの胸に何らかの感動の灯火を灯すような、ピースキャンドルが続いていくことを願っています。

(編集／水津佳奈)

Peace Candle 2016